

精神病の症状ドメイン簡易評価尺度

Brief Evaluation of Psychosis Symptom Domains – Japanese version

(BE-PSD-J)

使用マニュアル

Hiroyoshi Takeuchi, MD, PhD

Gagan Fervaha, BSc

Jimmy Lee, MBBS, MMed, MCI

Ofer Agid, MD

Gary Remington, MD, PhD, FRCPC

I. 評価尺度の概要

- この評価尺度は精神病の5つの症状ドメインの概括的重症度をそれぞれ評価するために作成されており、精神病のすべての症状の重症度を網羅的に評価するためのものではない。
- この評価尺度は精神病の5つの症状ドメイン：精神病症状、思考の解体、陰性症状、興奮／躁、うつ／不安から構成されている。

II. 採点方法

- 過去1週間の症状の頻度と行動への影響に基づき重症度を評価せよ（思考の解体と陰性症状の“情動表出の減少”を除く）。
- 思考の解体と陰性症状の“情動表出の減少”については、面接中の観察された行動の頻度と面接への影響に基づき評価せよ。
- 各症状ドメインに記載されている症状のみを評価せよ。
- 各症状ドメインのすべての症状を勘案して重症度を評価せよ。
- 症状の原因は考慮せず重症度を評価せよ。
- 利用可能なすべての情報源（例として、患者、家族、介護者、スタッフ）を使用せよ。
- 各症状ドメインの重症度は0（なし）から6（非常に重症）で採点せよ。
- この評価尺度の原則的な採点方法は以下である。

症状ドメイン		
評点	コード	アンカーポイント
0	なし	症状は出現せず。
1	最小限	症状は稀に出現し、かつ、行動への影響がない。
2	軽度	症状は稀に出現し、かつ、行動への影響がほとんどない。
3	中等度	症状は時に出現する、もしくは、行動への影響がいくらかある。
4	やや重度	症状は頻繁に出現する、もしくは、行動への影響がかなりある。
5	重度	症状はほとんどの時間出現する、もしくは、行動への影響が深刻である。
6	非常に重度	症状はほとんどの時間出現し、かつ、行動への影響が深刻である。

- 複数の得点が該当する場合、最も高い評点（すなわち、より高い重症度）を選択せよ。
- 症状ドメインが評価できない場合、評価不能と記載せよ。
- 疾患の概括的症状重症度として、5つの症状ドメインの評点の合計を使用せよ。

1. 精神病症状

以下の症状について、過去1週間の頻度と行動への影響を評価せよ：

- 幻覚：幻聴、幻味、幻臭、体感幻覚、幻触、幻視
- 妄想：被害妄想、関係妄想、誇大妄想、被愛妄想、虚無妄想、奇異な妄想（例えば、思考奪取、思考吹入、被影響妄想）

精神病症状		
0	なし	精神病症状は出現せず。
1	最小限	精神病症状は稀に出現し、かつ、行動への影響がない。
2	軽度	精神病症状は稀に出現し、かつ、行動への影響がほとんどない。
3	中等度	精神病症状は時に出現する、もしくは、行動への影響がいくらかある。
4	やや重度	精神病症状は頻繁に出現する、もしくは、行動への影響がかなりある。
5	重度	精神病症状はほとんどの時間出現する、もしくは、行動への影響が深刻である。
6	非常に重度	精神病症状はほとんどの時間出現し、かつ、行動への影響が深刻である。

2. 思考の解体

以下の症状について、面接中に観察された頻度と面接への影響を評価せよ：

- 思考の解体もしくは思考形式の障害（例えば、脱線または連合弛緩、的外れ、滅裂もしくは“言葉のサラダ”）

思考の解体		
0	なし	思考の解体は観察されず。
1	最小限	思考の解体は稀に観察され、かつ、面接への影響がない。
2	軽度	思考の解体は稀に観察され、かつ、面接への影響がほとんどない。
3	中等度	思考の解体は時に観察される、もしくは、面接への影響がいくらかある。
4	やや重度	思考の解体は頻繁に観察される、もしくは、面接への影響がかなりある。
5	重度	思考の解体はほとんどの時間観察される、もしくは、面接への影響が深刻である。
6	非常に重度	思考の解体はほとんどの時間観察され、かつ、面接への影響が深刻である。

3. 陰性症状

以下の症状について評価せよ：情動表出の減少については面接中に観察された頻度と面接への影響；意欲欠如については過去1週間の頻度と行動への影響：

- **情動表出の減少**：顔の感情表出、視線を合わせる、発語の抑揚（すなわち、韻律）、手、首、顔の動きの減少
- **意欲欠如**：自発的な目的に沿った行動の減少（例えば、長い時間座っている、仕事や社会活動への参加にほとんど興味を示さない）

陰性症状		
0	なし	情動表出の減少は観察されず、かつ、意欲欠如は出現せず。
1	最小限	[情動表出の減少は稀に観察され、かつ、面接への影響がない。] もしくは [意欲欠如は稀に出現し、かつ、行動への影響がない。]
2	軽度	[情動表出の減少は稀に観察され、かつ、面接への影響がほとんどない。] もしくは [意欲欠如は稀に出現し、かつ、行動への影響がほとんどない。]
3	中等度	[情動表出の減少は時に観察される、もしくは、面接への影響がいくらかある。] もしくは [意欲欠如は時に出現する、もしくは、行動への影響がいくらかある。]
4	やや 重度	[情動表出の減少は頻繁に観察される、もしくは、面接への影響がかなりある。] もしくは [意欲欠如は頻繁に出現する、もしくは、行動への影響がかなりある。]
5	重度	[情動表出の減少はほとんどの時間観察される、もしくは、面接への影響が深刻である。] もしくは [意欲欠如はほとんどの時間出現する、もしくは、行動への影響が深刻である。]
6	非常に 重度	[情動表出の減少はほとんどの時間観察され、かつ、面接への影響が深刻である。] もしくは [意欲欠如はほとんどの時間出現し、かつ、行動への影響が深刻である。]

4. 興奮／躁

以下の症状について、過去1週間の頻度と行動への影響を評価せよ：

- **興奮**：興奮、精神運動焦燥（すなわち、非目標指向性の活動の増加）、落ち着きのなさ、攻撃性、敵意、非協調性、衝動制御の不良
- **躁**：高揚した、開放的な、易怒的な気分、目標指向性の活動の増加、自尊心の肥大もしくは誇大性、観念奔逸もしくは思考の競合、注意散漫

興奮／躁		
0	なし	興奮／躁は出現せず。
1	最小限	興奮／躁は稀に出現し、かつ、行動への影響がない。
2	軽度	興奮／躁は稀に出現し、かつ、行動への影響がほとんどない。
3	中等度	興奮／躁は時に出現する、もしくは、行動への影響がいくらかある。
4	やや重度	興奮／躁は頻繁に出現する、もしくは、行動への影響がかなりある。
5	重度	興奮／躁はほとんどの時間出現する、もしくは、行動への影響が深刻である。
6	非常に重度	興奮／躁はほとんどの時間出現し、かつ、行動への影響が深刻である。

5. うつ／不安

以下の症状について、過去1週間の頻度と行動への影響を評価せよ：

- うつ：抑うつ気分（例えば、悲しさ、空虚感、絶望感）、無価値感もしくは罪責感、死についての思考、自殺念慮、自殺企図
- 不安：不安、心配、苦悩、パニック発作を含む緊張の身体症状

うつ／不安		
0	なし	うつ／不安は出現せず。
1	最小限	うつ／不安は稀に出現し、かつ、行動への影響がない。
2	軽度	うつ／不安は稀に出現し、かつ、行動への影響がほとんどない。
3	中等度	うつ／不安は時に出現する、もしくは、行動への影響がいくらかある。
4	やや重度	うつ／不安は頻繁に出現する、もしくは、行動への影響がかなりある。
5	重度	うつ／不安はほとんどの時間出現する、もしくは、行動への影響が深刻である。
6	非常に重度	うつ／不安はほとんどの時間出現し、かつ、行動への影響が深刻である。